

第2学年国語科学習指導案

1 単元・題材 いにしへの心を訪ねる「漢詩の風景」(光村図書2年)

2 目標

- 漢詩独特のリズムや言葉遣いに触れ、意欲的に漢詩に描かれた世界を楽しむことができる。
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 作品の構成や表現の特徴に着目し、その効果をふまえ、漢詩の情景や作者の心情を読み取ることができる。
(読む能力)
- 歴史的仮名遣いを正しく読み、作者の思いや描かれた情景を想像しながら音読することができる。
(言語についての知識・理解・技能)

3 指導観

- 本題材は、中学校学習指導要領国語第2学年の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の(1)ア(イ)「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」及び(ア)「作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。」さらにC「読むこと」の(1)ウ「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。」に基づくものである。

中国からもたらされた漢詩は、平安時代の文学に強い影響を与えた。その平安時代の文学が、わが国のその後の言語文化、精神文化に大きな影響を及ぼしていることを考えると、漢詩の日本文学における影響は大きいといえるだろう。漢詩に歌われる自然の美しさや人生に対する深い思いは、時代や国を超えて、私たちにも共感できる鮮やかさがある。

漢詩は、起・承・転・結のダイナミックな構成の中に、その季節らしい美しい情景を目に浮かべることができる。その叙述の中で、作品に深みを与えるのが表現技法であろう。余韻を残す体言止め、リズムを生む対句表現などが、さらに作品を印象的なものとしている。本単元で取り上げられた漢詩三編は、いずれも唐代の著名な漢詩である。漢詩としては、中学生にもとらえやすい語句で構成されるとともに、対句表現や倒置表現などが用いられており、表現の特徴やその効果を考え、描かれている情景を味わい、作者の心情や生き方に迫る本題材は、大変意義深いものとする。

- 本学級の生徒は、男子12名、女子16名、計28名で構成されている。大変明るく、元気の良い学級である。授業に対する取組も意欲的で、積極的に挙手をして発表する姿が見られる。

4月に実施されたNRTテストの結果によれば、本学級偏差値は51.6という結果であった。大領域別では、「読むこと」が全国比93.4であり、課題であることがわかった。「伝統的な言語文化と国語の特質」については、全国比109.9という結果であった。中領域では、「説明的な文章を読むこと」が全国比110であるのに対し、「文学的な文章を読むこと」が81、さらに「古典的な文章に親しむこと」が95であった。

5月上旬にとった国語に関するアンケートでは、国語の勉強が「好き」または「どちらかと言えば好き」と答えた生徒が63パーセントであった。領域別の質問の「読むこと」に関しては、「物語を読むことが好きですか」という質問に対し、「好き」または「どちらかと言えば好き」と答えた生徒が70パーセントいた。それに対して、「古文や漢文を読むこと」については同様の生徒が63パーセントにとどまった。大きく下がる結果ではないが、やはり、古文や漢文に苦手意識をもっている生徒が多いことが分かった。また、「班や学級での話し合いの時、自分の意見を発表

できますか」という質問では、「できる」または「どちらかと言えばできる」と答えた生徒が74パーセントという結果になった。このことから、自分の意見を班の中などで発表することに苦手意識をもっている生徒は少ないということがわかった。

1年次の漢文に関する学習では、「矛盾」や「故事成語」を通して、訓読の仕方、漢文独特のリズムをふまえた音読などを学習している。訓点に従って読む順番を考える学習では、パズルを解くような感覚で楽しみながら学習する姿が見られた。しかし、漢詩の形式を学習したり、訓読文で漢詩を読んだりするのは初めてのことであり、独特の言い回しなどあっても、学習に抵抗感を感じる生徒も少なくないのではないかと考えられる。

- そこで指導にあたっては、古文や漢文に苦手意識をもった生徒にも配慮しながら、漢詩との出会いの場を工夫するとともに、漢詩の読み方や味わい方を学ばせていきたいと考える。そこで、事前に漢和辞典を使って語句の意味調べを行い、漢詩独特の言い回しや語句の意味を把握させておく。そして、音読を繰り返すことで漢詩独特のリズムや言葉遣いにも慣れさせていきたい。また、起句や承句などの構成を表す漢詩独特の用語をしっかりと押さえ、学習の過程で適切な用語を用いて学習が進められるように授業を展開させたい。さらに、単元全体を通して「漢詩の魅力を探る」学習活動を設定して、決してなじみ深いとは言えない漢詩の学習を通して、昔の日本人が漢詩のどのようところに魅力を感じたのかを考えながら主体的に学習を進めることができるようにする。しかし、作品に描かれた情景や心情を読み取るのが難しい生徒もいるので、意味調べをした語句を手掛かりに丁寧に口語訳するとともに、写真などを提示して、描かれている情景の色彩や遠近などを視覚的にとらえさせ、理解の一助としたい。

第1時では、まず「春暁」を使って、漢詩の構成などの基本事項を押さえる。そして、音読を通して漢詩の世界に親しませたい。「春暁」で描かれている心情や情景を読み取っていき、転句での雰囲気の変化に気づかせ、次時の学習に繋げていきたい。

第2時では、「絶句」を通し、起句、承句に描かれた、より鮮やかな情景を味わい、漢詩の世界に引き込んでいきたい。既習事項の対句にもふれ、対句が生むリズムを音読のときに生かしていく。また、転句や結句に表現された心情を読み取り、「看」や「又」に着目することで美しい風景を前にしても満たされない作者の心情に思いを馳せ、望郷の思いを味わわせたい。「絶句」の魅力を挙げる過程では、個人、班、全体と学習形態を広げていき、より多くの意見を共有し、読みを深めるねらいとする。生徒が、美しい情景描写から望郷の思いを綴った心情描写へ雰囲気が一変する転句の効果に気づき、「絶句」の魅力として挙げることを期待される。

第3時では、「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」を通し、友人をたった一人で見送る作者の心情や、転句での場面展開の見事さを味わわせたい。結句での倒置法にも触れ、友人を乗せた舟が水平線に消え、見えなくなるまで見送る作者の心情に迫りたい。

第4時では、「春望」を通し、対句などの律詩の特徴を押さえ、「絶句」でも触れた、作者の望郷の思いや家族への愛情について読み取らせたい。鑑賞文の構成について確認し、「春暁」「絶句」「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の三編の漢詩の中から自分の好きな一編を選び、その漢詩の鑑賞文を書かせる。漢詩に描かれた情景や心情、転句や表現技法の効果などにも触れ、自分が選んだ漢詩のもつ魅力について、自分の言葉で表現する学習を展開する。

これらのことを通して、作品の構成や表現の特徴に着目しながら、作品に描かれている情景を味わわせ、作者のものの見方や生き方を考える学習に迫りたい。そして、今後出会う漢詩にも興味・関心をもち、生徒が主体的に描かれた情景や心情を味わおうとする学びの意欲へと繋げていきたい。

4 指導計画と評価計画 (全4時間)

時間	学習内容及び学習活動	国語への関心 ・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
1	<p>○本題材の学習内容を知り、見直しをもつ。</p> <p>○漢文訓読の復習をする。</p> <p>○「春暁」を音読する。</p> <p>○「春暁」の大意をつかみ、漢詩の構成を確認する。</p> <p>「春暁」中に描かれている心情、情景を発表する。</p>	<p>○漢詩について興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>〈観察・発表〉</p>	<p>○漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、作品の表現の特徴やその効果について考えることができる。</p> <p>〈ワークシート・発表〉</p>	<p>○歴史的仮名遣いや文節の区切り目に注意しながら、書き下し文を音読することができる。</p> <p>〈観察〉</p>
2 (本時)	<p>○「絶句」の書き下し文を、漢詩のリズムをふまえながら音読する。</p> <p>○起句、承句に描かれている情景を確認する。</p> <p>○転句、結句での心情を読み取り、作者の望郷の思いについて考える。</p> <p>○転句の効果について考える。</p> <p>起句・承句に描かれた自然美と、転句・結句に描かれた作者の心情を対比させ、転句の効果や表現の特徴について発表する。</p>	<p>○構成や表現の特徴について気づいたことを挙げ、積極的に話し合いに参加しようとしている。</p> <p>〈観察・発表〉</p>	<p>○漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、作品の表現の特徴やその効果について考えることができる。</p> <p>〈ワークシート・発表〉</p>	<p>○漢詩の中の語句を使って説明することができる。</p> <p>〈ワークシート・発表〉</p>
3	<p>○「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の書き下し文を音読する。</p> <p>○転句、結句に着目し、友人を見送る作者の心情を考える。</p> <p>漢詩の中の倒置法の効果について考える。</p>	<p>○構成や表現の特徴について気づいたことを挙げ、積極的に話し合いに参加しようとしている。</p> <p>〈観察・発表〉</p>	<p>○漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、作品の表現の特徴やその効果について考えることができる。</p> <p>〈ワークシート・発表〉</p>	<p>○漢詩の中の語句を使って説明することができる。</p> <p>〈ワークシート・発表〉</p>
4	<p>○「春望」を読み、対句などの律詩の特徴を確認する。</p> <p>○鑑賞文の構成について確認する。</p> <p>三編の漢詩から、自分の好きな一編を選び、その漢詩の鑑賞文を書く。</p>	<p>○好きな漢詩を選び、表現の特徴や、心に響いた部分について、積極的に自分の言葉で表現しようとしている。</p> <p>〈観察・発表〉</p>	<p>○漢詩に描かれた情景や心情を読み取ることができる。</p> <p>〈ワークシート・発表〉</p>	<p>○学習したことを生かして、鑑賞文に適した語句を選ぶことができる。</p> <p>〈ワークシート〉</p>

5 本時の目標

- 漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、作品の表現の特徴やその効果について考えることができる。
(読む能力)

6 蓄えたい学習用語・蓄えたい語彙

蓄えたい学習用語	蓄えたい語彙
五言絶句 訓読文 訓点 返り点 レ点 一・二点 送り仮名 書き下し文 白文 起句 承句 転句 結句 歴史的仮名遣い 文節の区切り目 情景描写 対句 心情描写	江 碧 逾よ 青 然えん ～と欲す 看す 又

7 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価の視点
導入	1 これまでの学習内容を確認する。 2 本時の内容を確認する。 「絶句」の魅力を探ろう。	○「春暁」の復習を行う。黒板に掲示してあるカードを使い、学習した内容を簡単に確認し、転句の効果についても確認する。	
展開	3 「絶句」の書き下し文を音読する。 4 起句、承句に描かれている情景を想像する。 5 転句、結句での心情を読み取り、作者の望郷の思いについて考える。 6 「絶句」の魅力について話し合う。 7 本時の内容についてまとめる。 8 「絶句」に描かれた情景や心情を想像しながら音読する。	○漢詩独特のリズムをふまえ、歴史的仮名遣いや文節の区切り目に注意して音読をさせる。 ○漢和辞典で事前に調べた意味をもとに考えさせる。 ○写真やイラストを提示しながら説明加え、情景をイメージしやすくする。前半の二句に描かれている情景の色彩の対比について気付かせる。 ○訓読文の送り仮名に注目させ、対句にもふれる。 ○「看」「又」の語句に注目して、杜甫の心情を想像させる。杜甫がふるさとに帰れない理由については補足する。 ○まず個人で考える時間をとった後、班長を中心に話し合いを進めさせる。最後に、班でまとめた意見を代表に発表させる。 ○発表の仕方、聞き方について意識させる。 ○前時に学習した「春暁」と合わせて、転句を境にした明と暗に気付かせる。	I

まとめ	9 自己評価をする。	○感想を何人か発表させる。	
	10 次時の学習内容を知る。	○次時は「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」を学習することを伝える。	

8 評価の視点と評価項目

評価の視点	評価項目〈☆評価方法〉
I 漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、作品の表現の特徴やその効果について考えることができる。	・ 情景描写や心情描写、表現の特徴などに着目して、「絶句」の魅力がたくさんあげることができる。 〈☆ワークシート・発表〉

9 板書計画

蓄えさせたい学習用語・蓄えさせたい語彙

「絶句」の魅力とは？

結句 何れの日か是れ帰年ならん

心情描写

故郷に帰りたい望郷の念

転句 今春看す又過ぐ

起句 江は碧にして鳥は逾よ白く

対句 山は青くして花は然えんと欲す

情景描写

成都の色鮮やかな春の美しい情景

絶句
杜甫

書き下し文

漢詩の風景
「絶句」の魅力を探ろう。

漢詩の魅力を探ろう